

清流の息吹を訪ねて

アユとの別れ（後編）

く次世代につなぐ、生涯最後の大事なく

このコーナーは、市内山ノ内
で釣りに関するアドバイス
などを行う(株)フィッシュナビ
の代表で、「魚の専門家」の
八鳥洋二さんからご寄稿
いただいています。

あの真夏の鬱陶しかった日差しも弱々しくなり、セミの鳴き声もいつしかコオロギに変わり、日に日に秋の深まりを感じます。それは景色だけでなく、神戸川にいるアユの体やその行動にも表れるようになりました。体は成熟を意味する暗黒色を施し、静かに身を寄せ合いながら川を下る準備をしていました。

はじめは数十匹程度の小さな群れをつくり、それぞれが合流を繰り返



足並み揃え一斉に川を下るアユ達

し、やがては数百匹、数千匹、そして数万匹へと、全ては「産卵」という生涯の最終目的に向けて、神戸川全域にいるアユが集結します。川を埋め尽くす光景は圧巻の一言に尽きますが、同時に最後の別れを意味しています。アユ達は一斉に川を下り産卵、そして生涯を終えるのです。

アユは、寿命が1年の年魚。人間なら80年以上かけて全うすることを、アユはたった1年でやっつけてのけます。もちろん、生物それぞれに異なる時間を持ち、生涯のモノサシ尺度も全然違うのですが、アユの寿命は短くて儂いと感じてしまいます。

卵から生まれた赤ちゃんたちは、来年の春まで海（沿岸付近）で過ごし、初夏になる頃には若アユとなり川を上りはじめます。そして今度は、次世代のアユ達が新たな神戸川物語を作ってくれるようにしよう。